



## 2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月14日

上場会社名 三光産業株式会社  
 コード番号 7922 URL <https://www.sankosangyo.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石井 正和

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理統括本部長 (氏名) 阿部 雅弘

TEL 03-3403-8134

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	7,235	5.6	98		127		180	
2021年3月期第3四半期	7,667	1.4	19		24		262	

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 175百万円 ( %) 2021年3月期第3四半期 111百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	29.10	
2021年3月期第3四半期	42.43	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	11,952	7,957	66.6
2021年3月期	12,046	7,813	64.9

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 7,957百万円 2021年3月期 7,813百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		5.00	5.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2022年3月期の配当予想につきましては、今後、予想可能となった時点で連結業績予想とあわせて開示いたします。

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

現段階において新型コロナウイルス感染症の感染拡大が連結業績に与える影響を合理的に算定することはできないと判断し、2022年3月期の連結業績予想につきましては、未定とさせていただきます。今後、業績への影響が合理的に予想することが可能となった時点で速やかに開示いたします。

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	7,378,800 株	2021年3月期	7,378,800 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	1,185,873 株	2021年3月期	1,185,857 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	6,192,930 株	2021年3月期3Q	6,192,943 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	9
(重要な後発事象) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による消費活動の著しい停滞等を背景に、依然として極めて厳しい状況にあります。国内においては、感染者数の減少により各種要請が解除され経済活動が徐々に回復する中、個人消費及び企業収益は持ち直しつつあるものの、感染の再拡大も懸念されており、景気動向については今後も先行き不透明な状況が続いております。

印刷業界においては、日本国内において印刷需要が減少する中、受注競争による単価の下落、また海外においても現地企業との受注競争の激化等、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと当社グループは、新型コロナウイルス感染症の収束長期化及び世界的な半導体不足並びに原材料高騰等により業績の見通しが立たない中、「新・中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）」三年目にあたり、「顧客企業における最高のサプライヤーになる基盤を整備する」を経営の基本方針に掲げ、成長に向けた新たなチャレンジによる売上の拡大と効率化の推進による収益の改善に取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,235百万円（前年同期比94.4%）と減少となりました。

利益面につきましては、売上原価、販売費及び一般管理費の削減に努めた結果、営業利益は98百万円（前年同期は19百万円の営業損失）となりました。また、受取配当金及び受取賃貸料の計上により経常利益は127百万円（前年同期は24百万円の経常損失）となり、固定資産売却益を55百万円計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は180百万円（前年同期は262百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### ① 日本

パネル関連製品の幅広い営業展開と、シール・ラベル製品の受注確保のため既存取引先の深耕のほか日用品関連等の新規分野への営業展開を積極的に行い、製造面については、歩留率の改善等による効率化を進めてまいりました。

しかしながら、輸送用機器関連製品を中心に増収となったものの、AV機器関連、ラベル・ステッカー関連製品が減収となったことにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は5,514百万円（前年同期比97.8%）となりました。また、利益面については、販売費及び一般管理費の削減に努めたものの、セグメント損失は17百万円（前年同期は、89百万円のセグメント損失）となりました。

なお、日本セグメントに所属する連結子会社は、株式会社トムズ・クリエイティブであります。

#### ② 中国

中国セグメントにつきましては、連結子会社燦光電子（深圳）有限公司について、2019年8月に製造工場を閉鎖し、販売会社として国内の営業部門及び生産提携先との連携を強化し、中国市場における業績の安定化を目指して積極的な営業展開を継続いたしました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,082百万円（前年同期比154.5%）となり、セグメント利益は36百万円（前年同期比97.9%）となりました。

なお、中国セグメントに所属する連結子会社は、光華産業有限公司及び燦光電子（深圳）有限公司であります。

#### ③ アセアン

アセアンセグメントに所属する連結子会社サンコウサンギョウ（マレーシア）SDN. BHD.、サンコウサンギョウ（バンコク）CO., LTD. 及びサンコウサンギョウ（ベトナム）CO., LTD. につきましては、日本国内外からの営業面・製造面の支援を受け、積極的な営業活動及び製造工程の改善等を図っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束長期化による活動制限の影響を受け、電気機器関連のパネルを中心に受注減となった結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は638百万円（前年同期比48.1%）となりましたが、タイ工場閉鎖による製造原価、販売費及び一般管理費の削減及びマレーシアにおける受注増により、セグメント利益は67百万円（前年同期比201.6%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は11,952百万円となり、前連結会計年度末比93百万円減少いたしました。これは、主に現金及び預金が272百万円、商品及び製品が128百万円、その他流動資産が360百万円増加いたしました。受取手形、売掛金及び契約資産が228百万円、原材料及び貯蔵品が602百万円減少したことによるものであります。

負債総額は3,995百万円となり、前連結会計年度末比238百万円減少いたしました。これは、主に電子記録債務が388百万円、短期借入金が465百万円増加いたしました。支払手形及び買掛金が1,082百万円減少したことによるものであります。

また、純資産総額は7,957百万円となり、前連結会計年度末比144百万円増加いたしました。これは、主に配当金の支払いがあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益180百万円を計上したことによるものであります。この結果、自己資本比率は66.6%（前連結会計年度末は64.9%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言は解除されたものの、依然として感染拡大への警戒感根強く、国内外の経済活動の停滞や、消費者の行動変化による影響が不確定であるため、合理的に算定することは困難であることから未定としております。今後、業績への影響が合理的に予想することが可能となった時点で速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,485,328	2,757,480
受取手形及び売掛金	3,108,079	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	2,879,384
電子記録債権	736,249	717,894
商品及び製品	497,949	626,353
仕掛品	126,999	122,335
原材料及び貯蔵品	728,536	126,203
その他	602,483	962,958
貸倒引当金	△657	△663
流動資産合計	8,284,968	8,191,947
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,625,554	2,643,907
減価償却累計額	△1,815,252	△1,828,246
建物及び構築物（純額）	810,302	815,660
機械装置及び運搬具	2,295,656	2,328,584
減価償却累計額	△1,933,927	△2,009,741
機械装置及び運搬具（純額）	361,729	318,843
工具、器具及び備品	232,985	237,936
減価償却累計額	△190,716	△200,240
工具、器具及び備品（純額）	42,269	37,696
土地	1,280,637	1,279,417
リース資産	59,525	58,262
減価償却累計額	△40,981	△46,040
リース資産（純額）	18,543	12,222
建設仮勘定	5,212	-
有形固定資産合計	2,518,694	2,463,840
無形固定資産		
ソフトウェア	4,027	10,009
ソフトウェア仮勘定	117,490	113,349
無形固定資産合計	121,517	123,358
投資その他の資産		
その他	1,149,642	1,197,796
貸倒引当金	△27,896	△24,013
投資その他の資産合計	1,121,746	1,173,782
固定資産合計	3,761,958	3,760,981
資産合計	12,046,927	11,952,928

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,512,127	1,429,944
電子記録債務	352,914	741,585
短期借入金	488,592	953,895
未払法人税等	25,403	10,173
賞与引当金	87,995	60,579
その他	226,736	228,622
流動負債合計	3,693,768	3,424,800
固定負債		
長期借入金	300,000	325,000
退職給付に係る負債	132,977	127,483
繰延税金負債	93,525	107,786
その他	13,606	10,500
固定負債合計	540,109	570,769
負債合計	4,233,878	3,995,570
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,850,750	1,850,750
資本剰余金	2,277,951	2,277,951
利益剰余金	4,318,913	4,468,215
自己株式	△1,013,866	△1,013,873
株主資本合計	7,433,748	7,583,043
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	506,936	538,269
為替換算調整勘定	△127,636	△163,954
その他の包括利益累計額合計	379,300	374,314
純資産合計	7,813,048	7,957,358
負債純資産合計	12,046,927	11,952,928

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	7,667,561	7,235,346
売上原価	6,417,071	5,843,469
売上総利益	1,250,489	1,391,876
販売費及び一般管理費		
役員報酬及び給料手当	616,873	639,458
賞与引当金繰入額	29,982	28,915
退職給付費用	33,868	39,275
福利厚生費	117,403	112,947
その他	471,678	473,014
販売費及び一般管理費合計	1,269,806	1,293,611
営業利益又は営業損失(△)	△19,316	98,264
営業外収益		
受取利息	1,454	1,490
受取配当金	19,304	20,681
貸倒引当金戻入額	-	255
受取賃貸料	6,866	11,204
為替差益	-	7,547
その他	903	2,984
営業外収益合計	28,528	44,163
営業外費用		
支払利息	3,734	14,241
賃貸建物減価償却費	409	165
為替差損	22,201	-
その他	7,453	83
営業外費用合計	33,797	14,490
経常利益又は経常損失(△)	△24,585	127,937
特別利益		
固定資産売却益	758	55,645
特別利益合計	758	55,645
特別損失		
固定資産処分損	2,606	707
減損損失	146,615	-
特別損失合計	149,222	707
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△173,049	182,875
法人税、住民税及び事業税	7,345	10,032
法人税等調整額	82,426	△7,423
法人税等合計	89,771	2,608
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△262,820	180,266
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△262,820	180,266

（四半期連結包括利益計算書）  
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△262,820	180,266
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	191,954	31,332
為替換算調整勘定	△40,188	△36,318
その他の包括利益合計	151,766	△4,985
四半期包括利益	△111,054	175,280
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△111,054	175,280
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、製品等の販売について、輸出取引については、従来は出荷時に収益を認識しておりましたが、着荷時に収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高、売上原価、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。なお、利益剰余金の期首残高に反映されるべき累積的影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示しておりました「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	日本	中国	アセアン	合計
売上高				
外部顧客への売上高	5,639,771	700,520	1,327,269	7,667,561
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,107,205	2,175,615	14,464	3,297,286
計	6,746,977	2,876,135	1,341,734	10,964,847
セグメント利益又は損失（△）	△89,384	37,438	33,591	△18,354

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△18,354
セグメント間取引消去	△962
四半期連結損益計算書の営業損失	△19,316

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

日本セグメントにおいて、当初想定していた利益が見込めないため、一部の資産について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において146,615千円です。

(のれんの金額の重要な変動)

上記の通り、日本セグメントにおいて、のれんの減損損失を計上したため、のれんが減少しております。

なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間において146,615千円です。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	日本	中国	アセアン	合計
売上高				
外部顧客への売上高	5,514,512	1,082,645	638,188	7,235,346
セグメント間の内部売上高 又は振替高	792,940	936,458	12,897	1,742,296
計	6,307,453	2,019,104	651,085	8,977,643
セグメント利益又は損失（△）	△17,385	36,670	67,711	86,996

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	86,996
セグメント間取引消去	11,268
四半期連結損益計算書の営業利益	98,264

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 4. 報告セグメントの変更等に関する事項

「会計方針の変更」に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更による影響額は軽微であります。

## (重要な後発事象)

(連結子会社における大雨被害の影響)

2021年12月17日から18日にかけてのマレーシアでの大雨による洪水により、当社の連結子会社でありますサンコウサンギョウ（マレーシア）SDN. BHD. が被害を受けております。

物的被害については、製品、原材料の一部及び生産設備が被災しており、生産及び出荷業務に影響が出ております。早期再開が難しい状況のため、日本国内の各生産拠点にて代替生産を行っております。なお、人的被害はありません。

当該被害による連結業績に与える影響額は精査中ではありますが、損失額及び保険等による補償額は、不確定要素が多く、現時点では本件に関する損失等の金額を合理的に見積もることが困難な状況であります。

また、サンコウサンギョウ（マレーシア）SDN. BHD. の決算日は連結決算日と異なっており、当第3四半期連結累計期間においては、同社の2021年9月30日に終了した四半期累計期間の財務諸表を連結しているため、当該被害を重要な後発事象として記載しております。